

# 令和2年度 「市長と語る まちづくり」 懇談会 次 第

## 1. 開会

## 2. 懇談

テーマ

～女性が生き生きと活躍できる社会～

### 参加団体（5団体）

- ・ TUボランティア部  
（徳山大学生のボランティアサークル）
- ・ 周南保護区保護司会  
（犯罪や非行を行った人の更生を支援する団体）
- ・ 山口子どもの文化研究会  
（周南市の文化を後世に残す活動をする団体）
- ・ とともにSmile  
（男女共同参画を推進する団体）
- ・ 特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター  
（障害者等の支援を行う団体）

## 3. 閉会

「市長と語る まちづくり」懇談会

テーマ 女性が生き生きと活躍できる社会

No	団体名	提言内容
1	TUボランティア部	① 子育てしたくなる街にする為に、ママの経験と能力で地域を元気にしていくため、出産前、子育て中、子育て後のママたちに参加してもらって「ママサポ団体」を結成し、公式LINEなどを活用し、子育てに特化した「情報発信」をしていく。
		② 「女性総活躍バンク」を設立し、女性の意見、能力、アイデアを登録し、女性の発想をまちづくりに活用していく。また、まちづくりや新事業創発など、産官学も参加しアンケートや会議、ワークショップなどを定期的に開催したり、課題やテーマを呼びかけ、それに対して女性が参画することもできる。
		③ 大学や金融機関などと連携し、経済知識を女性が持つことで各家庭単位が自立できる社会を創造していくために、親子での勉強会はもちろんのこと、小中学生の頃から「お金のはなし」などを授業に組み込む。
2	周南保護区保護司会	① 一人一人が、個性を生かし、意欲的に社会参画できるためには家庭、職場、地域、それぞれに支え合う環境づくり（自助・互助・公助）が必要となる。意識改革を推進するために職場での研修（パワハラ・セクハラ）を年1回は実施するように要請できないか。
3	山口子どもの文化研究会	① お話会などを通して、男女がお互いを尊重し合うことが大切なことを伝える。当会では、年間150回以上のお話会や、作家をお呼びしての講演会を開催している。お話会は、幼児からお年寄りまで、年齢問わず開催している。 その際に、女性ならではの心遣いで、コミュニケーションをとり、思いやりや感謝の気持ちを繋げることを目指している。男女共同参画も勿論大切ですが、男女がお互いを尊重し合うことが、大切なことだと思っている。
4	ともにSmile	① 『一人の百歩より百人の一步』 ひとりひとりの人権の尊重を地道に発信、啓発を続けることが重要である。女性の生き生きとした活躍の為に、性差を超えた人権の理解が大切である。特に相談機関のスタッフの充実は、女性の活躍に欠かせない。
		② 行政組織またコミュニティ組織は、女性が生き生きと活躍できるものになっているでしょうか？ 市長自ら、各総合支所、支所を巡回し、コミュニティの役員のみならず、市民と語り合うことが、女性の元気につながる。広い周南、加えてコロナ禍、子育て中の家族、家からなかなか出られない市民の声が聞けるようにオンラインの活用、システムの構築が必要である。今回の時間設定も女性には特に出席が難しい時間帯である。
		③ 周南市で初めての女性市長誕生。市のトップである市長が生き生きと活躍されるよう願う。重責を担い、日々多忙とは存じますが、日常の気づき、市の魅力の発見、豊かな交流を引き続き広報で、またSNS等、手の平でみられるツールを活用し市内外に発信することで、周南市の魅力が更にアップすると思う。
5	特定非営利活動法人 周南障害者・高齢者支援センター	① いろいろな職種の働く女性を集めた異業種交流会を開催してみてもどうか。普段の生活や職場での活動を通して培ったアイデアの交換や社会生活におけるニーズの共感ができれば、新しい働き方や在り方が見つかると、活躍の場が広がると思う。もしかすると、日頃の困りごとが解決できるかもしれない。
		② 先日、とあるニュースを見て感じたことだが、まだまだ企業でも女性が育児休暇や介護休暇を気兼ねなく取ることができていない現状があるようだ。（全部の企業ではない。）多分、企業側からするといろいろと難しい部分があるのかもしれないが、どうしても休暇を取らなければいけない際、該当の方が言ってもいいのかな？と悩まなくても気軽に企業に言えるような感じになればいいと思う。最近では、女性だけでなく、男性が家庭に入り手伝えることもあるこの世の中で、男性も女性も育児休暇・介護休暇を気軽にとれる社会になって欲しい。